



『なんで人は青を作ったの?』

谷口陽子、高橋香里／著 クレメンス・メツラー／画
新泉社 ¥2,420 (税込)

中学1年生の蒼太郎と律は、地域の理科実験教室の森井老人から、人間と関わりの深い「青色」の研究に誘われる。歴史や美術オタクの大人に振り回されながらも二人は研究に没頭していく。著者の高橋香里さんは甲府市出身。



『ぶたのしっぽ』

海緒裕／作 嶽まいこ／絵
講談社 ¥1,540 (税込)

野球部の豪太郎には、誰にも言えない趣味がある。編みぐるみ作りだ。職場体験で知り合った不登校の篠田から、自作したモデルロケットを学校に展示してほしいと頼まれると、豪太郎は自分も編みぐるみを展示したくなり…。



『ぼくとコテツの最後の3カ月』

槻木こえた／著 江本宏平／監修 くまおり純／イラスト
Gakken ¥1,430 (税込)

颯太そうたが生まれた時から一緒にいる犬のコテツ。年をとって病気になる、ついに別れの日がやってくる。犬の老化のサインや介護方法、ペットロスとの向き合い方などを紹介したコラムがあり、物語の理解が深まる。



『真昼にも星が光ると知ったのは』

梨屋アリエ／作 みつきさなぎ／装画
ポプラ社 ¥1,760 (税込)

電車で白杖を持つ青年が、譲られた席でスマホを見ていた事を不審に思う夏鈴。彼の事を調べるなかで、思いがけず自分が発達障害である事を知る。さらに「障害があったら対等の友だちにはなれない」という親友の言葉に傷付き…。



『虫と仕事がしたい!』

丸山宗利、柳澤静磨／編著 前野ウルド浩太郎、小松貴／他著
河出書房新社 ¥1,694 (税込)

地球上には多様な虫がいて、虫に関わる仕事も人々もさまざま。昆虫館の職員や昆虫動画を公開する YouTuber、虫が苦手な研究員など、15人の仕事の内容や仕事に対する考え方を紹介する。



『もしも君の町がガザだったら』

高橋真樹／著
ポプラ社 ¥1,980 (税込)

封鎖されたガザ地区で、爆撃や飢え、病気などに苦しむ人々。その現状と、パレスチナをめぐる歴史をわかりやすく解説した一冊。もし、自分がガザに住んでいたなら…と具体的に考え、想像する事が世界を変える第一歩になる。



『ものすごい研究図鑑』

Gakken／編
Gakken ¥5,500 (税込)

「余った白菜でコンクリートを作る」「情報を駆使して世界の安全保障に挑む」「宇宙人の存在を科学的に検証する」など、独自の道を歩む12人の研究者と、その研究内容を紹介する。進路を考える際にも参考になる。



『わたしのbe』

佐藤いつ子／著
KADOKAWA ¥1,760 (税込)

自分の見た目に自信が持てず、メイクに挑戦する文香。同じ書道部の佑京が真摯に書に取り組み姿勢に触発されて「美しい字」を目指し書道と向き合う。そして「美しさ」とは何かを考え…。他人の言葉に揺れる高校生の心情を丁寧に描く。

『TRUE Colors』

神戸遥真、蒼沼洋人／他著 鎌谷悠希／装画 講談社 ¥1,760 (税込)

『なんで人間にはしっぽがないの?』

東島沙弥佳／著 久米火詩／画 新泉社 ¥2,420 (税込)

『逃げ続けたら世界一周していました』

白石あづさ／著 岩波書店 ¥1,034 (税込)

『ペンツベルクの夜』

キルステン・ホイエ／作 木本栄／訳 静山社 ¥1,980 (税込)

『僕には鳥の言葉がわかる』

鈴木俊貴／著 小学館 ¥1,870 (税込)

『僕の仕事はごみ清掃員。』

滝沢秀一／著 河出書房新社 ¥1,694 (税込)

『ルッキズムってなんだろう?』

西倉実季／著 関和之／イラスト 平凡社 ¥1,760 (税込)